

平成29年度血液製剤使用実態調査報告

一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会 輸血業務に関する総合的調査実施小委員会（担当；牧野）

◆ 目的

「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（血液法）の基本方針に掲げている適正使用の推進の観点から、「血液製剤の使用指針」及び「輸血療法の実施に関する指針」を都道府県に通知しているが、未だ十分周知徹底しているとは言えない。このため、各医療機関における輸血管理体制の整備、および血液製剤の使用状況や適正使用の促進状況などを正確に把握することを目的とする。本調査は、国の委託事業として、日本輸血・細胞治療学会が、日本臨床衛生検査技師会および日本赤十字社の協力を得て2008年より実施している。

◆ 回答集計（表1）

アンケート対象施設数（2016年に日赤より輸血用血液製剤の供給があった施設） 10,034施設（返却・辞退の66施設は除く）
輸血業務・血液製剤年間使用量調査回答施設 5,092施設（50.75%） Web回答：3,800施設（74.63%） 手書き：1,292施設（25.37%）

実施年次	2005年*	2008年	2009年	2010年	2011年**	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
調査依頼施設数	7,952	7,857	7,762	11,435	10,428	11,348	11,015	10,726	10,166	9,768	10,034
回答施設数	5,452	3,208	2,332	4,352	4,322	4,812	4,894	5,434	5,261	5,022	5,092
回答率	68.56%	40.83%	30.04%	38.06%	41.45%	42.40%	44.43%	50.66%	51.75%	51.41%	50.75%
調査実施主体	国（厚労省）	国の委託事業として日本輸血・細胞治療学会が日本臨床衛生検査技師会及び日本赤十字社の協力を得て実施									

*2005年調査は国（厚労省）主体の調査であり、20病床以上の一般病床を対象とした。 **2011年は東日本大震災で被災された東北4県（岩手県、宮城県、福島県、茨城県）を除いて調査した。

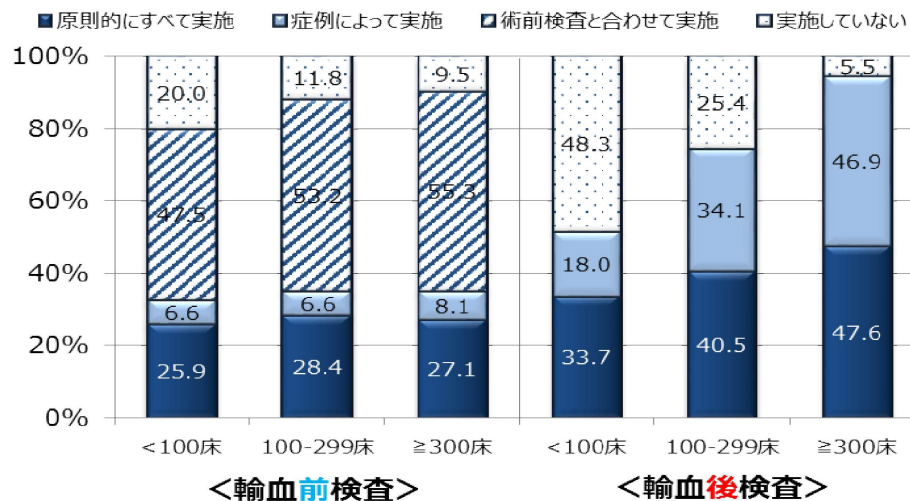
◆ 調査依頼施設（表2）

*2017年調査対象施設は、2016年に日赤より輸血用血液製剤が供給された全医療施設（10,090施設）であり、血漿分画製剤使用施設をすべて含んでいるわけではない。

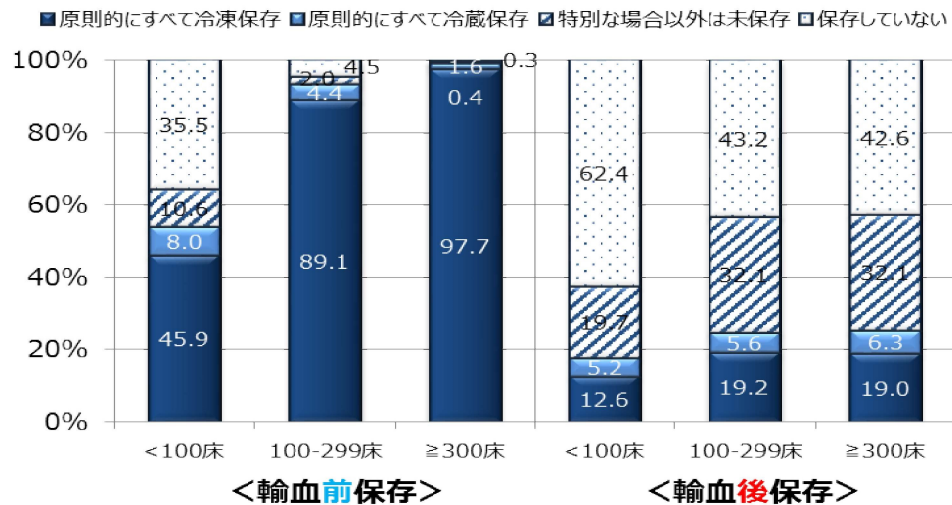
病床数	0	1-19	20-99	100-199	200-299	300-399	400-499	500-599	600-699	700-799	800-899	900-999	≥1000
輸血実施施設数	2,307	1,842	2,963	1,446	535	419	254	126	92	42	27	14	23
比率(%)	22.86%	4,805(47.62%)		1,981(19.63%)		673(6.67%)		324(3.21%)					
	7,112(70.49%)			1,981(19.63%)		997(9.88%)							
回答施設	793	777	1,474	931	359	291	185	99	84	35	25	12	22
回答率(%)	34.37	42.18	49.75	64.38	67.10	69.45	72.83	78.57	91.30	83.33	92.59	85.71	95.65
赤血球使用量	0.47%	6.40%		18.89%		26.26%		47.98%					
血小板使用量	0.06%	2.41%		9.83%		24.15%		63.54%					
FFP使用量	0.01%	2.55%		9.02%		23.41%		65.01%					
全血液製剤	0.20%	3.78%		12.81%		24.78%		58.43%					

*国内の輸血実施施設の90.12%は300床未満の医療施設であるが、輸血用血液製剤の83.21%は300床以上の医療施設で使用されている。特に血小板製剤とFFP使用は施設数としては全体の3.21%である500床以上の大規模医療施設で63%以上が使用されている。

a) 輸血前後の感染症検査



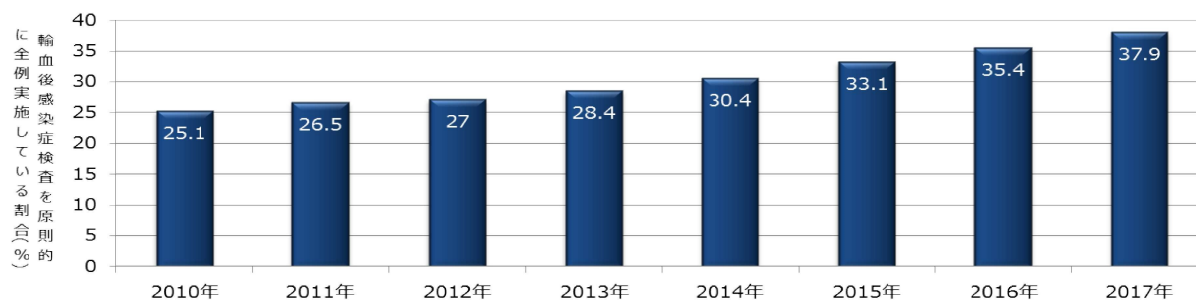
b) 輸血前後の検体保存



◆ 輸血後感染症検査の年次推移 (表 25、図 24)

輸血後感染症検査の実施状況	2010年		2011年		2012年		2013年		2014年		2015年		2016年		2017年	
	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率	施設数	比率
全例に実施	863	25.1%	921	26.5%	1,005	27.0%	1,104	28.4%	1,293	30.4%	1,331	33.1%	1,546	35.4%	1,656	37.9%
症例によって	948	27.6%	964	27.7%	1,049	28.2%	1,087	28.0%	1,205	28.3%	1,212	30.1%	1,212	27.7%	1,189	27.2%
未実施	1,629	47.4%	1,594	45.8%	1,665	44.8%	1,696	43.6%	1,754	41.3%	1,484	36.9%	1,613	36.9%	1,528	34.9%
回答施設合計	3,440		3,479		3,719		3,887		4,252		4,027		4,371		4,373	

* 輸血後感染症検査を行う施設が徐々に増加しており、半分以上の施設で全例または一部症例で実施されている。



* 左図(図 24)は、「原則的に輸血実施患者の全例において輸血後感染症検査を実施している施設」の年次推移を示しており、7年前の 25.1% から 37.9%に明らかに増加している。

◆ 輸血副作用報告体制 (輸血用血液製剤および血漿分画製剤) (表 26) 複数回答